

今後の認知証施策の方向性について（基本目標）

○「認知症の人は精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指す。

○この実現のため、新たな視点に立脚した施策の導入を積極的に進めることにより、これまでの「自宅→グループホーム→施設あるいは一般病院・精神科病院」というような「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な「認知症ケアパス」（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築することを、基本目標とする。

今後の取り組み

1. 標準的な認知症ケアパスの作成・普及
2. 早期診断・早期対応
3. 地域での生活を支える医療サービスの構築
4. 地域での生活を支える介護サービスの構築
5. 地域での日常生活・家族支援の強化
6. 若年性認知症施策の強化
7. 医療・介護サービスを担う人材の育成

これからの課題

1. 早期診断・早期対応はいつから始めるのか、どこまでどういった点が有効か？
2. 認知症ケアパスをどのように作ればよいか？
3. 医療関係者と介護関係者のサービスの連携をどのように進めるか？
4. 認知症ケアにおける家族の役割をどう考えるか？
5. 家族のいない認知症の人でも地域での生活は可能か？